

彦根市日中友好協会会報

発行所 彦根市日中友好協会会長 中島 一宅 気付 日中友好協会事務局
平成23年度 Vol.9 No.1 (通算第12号)
発行日 2011年10月1日

社会活動で学んだこと

聖泉大学留学生学友会会長 毛 一鳴

日本に来て一年半が経ち、いろいろなことを体験してきました。小学校の活動のサポーターから、お城祭りや七夕祭りなど各種の祭りのSTAFF、中国四川大地震や東日本大震災などの募金活動まで、数多くのボランティア活動や社会活動に参加し、貴重な経験を得ました。

まず、小学校のサポーターとして活動していた時、児童たちとのふれあいの中で、大学の「児童心理学」を授業で学んだことが役に立ち、授業の内容についても深く理解することができました。そして、子供を持つ親の楽しさと大変さも少し分かってきたような気がします。

次に、花ショウブ通りや銀座商店街の祭りのSTAFF活動を通して、日本人のチームワークの良さを理解できました。テントや机などの後片付けを始めた時、急に雨が降ってきました。50人ほどもいたのに、傘をさすものは一人もいませんでした。みんな雨の中で黙々と作業を続けていました。最

後に雨の中に全員が集合し、主催側代表者から「皆さんのおかげで無事に終わりました。お疲れ様でした!」と労いの言葉を掛けられました。全身ずぶ濡れになり、正直言いますとちょっと肌寒かったが、とても遣り甲斐があって楽しい思い出となりました。

このような社会活動に参加し、多くの日本人と仲良くなりました。来日前に日本人と中国人の違いをいろいろと感じていましたが、これらの活動を通して国籍や言葉が違おうが、同じ人間ですから、さほど違いがないと思うようになりました。

また、今までよくわからなかったことも地域活動を通し理解できました。例えば、NPO組織や商店街連盟など、人と人を繋ぎ地域の繁栄を支える民間団体は、それぞれの立場で知恵を絞って地域社会に貢献しています。私はこれからも社会活動に積極的に参加しようと心を決めています。今日この頃です。